

1 道路舗装の現状

道路の舗装は交通を支える重要なインフラです。舗装は車両（特に大型車）が走行することでひび割れやわだち掘れ等の損傷が起これ、走行性が悪くなっていきます。損傷が重度になってくるとハンドルがとられて交通事故を発生させる原因にもなるため、継続的に舗装を修繕する必要があります。

川口市では平成25年度より舗装の傷み具合を点検する「路面性状調査」を行っており、平成25年度から平成28年度の調査結果を用いて、平成29年度に「舗装の個別施設計画」を策定し、計画的に舗装の修繕を実施しています。令和3年度で計画した修繕区間の舗装の修繕が完了するため、最新の路面性状調査結果を用いた「舗装の個別施設計画」の更新を令和3年度に実施しました。

2 舗装の維持管理の基本的な考え方

2.1 管理道路の分類

- 舗装の維持管理を効率的に行うために、管理道路の分類を行っています。計画的に維持管理を行う幹線市道(区画整理地等を除く)を「舗装の個別施設計画」の計画対象道路としています。

表1. 管理道路の分類

分類	道路種別	延長
計画対象道路	幹線市道(区画整理地等を除く)	149km

2.2 管理基準

- 計画対象道路の管理基準はMCI値という舗装維持管理指標を用いて設定しています。
- 計画対象道路は5年に1度、路面性状測定車にて路面性状調査を行います。
- 計画対象外道路は職員の巡視により、目視にて路面性状を把握します。

表2. 分類毎の管理基準

分類	管理基準	点検方法	点検頻度
計画対象道路	MCI値5.1以上	路面性状調査	5年に1度
計画対象外道路	職員の巡視の機会を通じた目視による路面性状把握		

***MCI値とは**

MCI値(Maintenance Control Index)とは、舗装の「ひび割れ」、「わだち掘れ」、「平坦性」の3つの要素により算出されます。MCI値は10点満点の減点法で評価され、新しい舗装は10に近いMCI値となり、その後自然劣化や交通荷重によって年々低下していき、MCI値5を下回ると修繕が必要となります。現状把握のためには継続的な調査が必要です。

3 修繕計画

- 計画期間は5年(令和4年度~令和8年度)とします。
- 修繕費用は約5億5千万円、修繕延長は約5kmになります。

4 修繕の優先順位

- 効率的な修繕を行うため、MCI値5.0以下が100m以上続く区間を計画的修繕対象区間とします。
- 修繕の優先順位は修繕対象区間内のMCI平均値が低い順としますが、過年度までの施工の連続性、道路占有者による工事との調整を図り設定します。

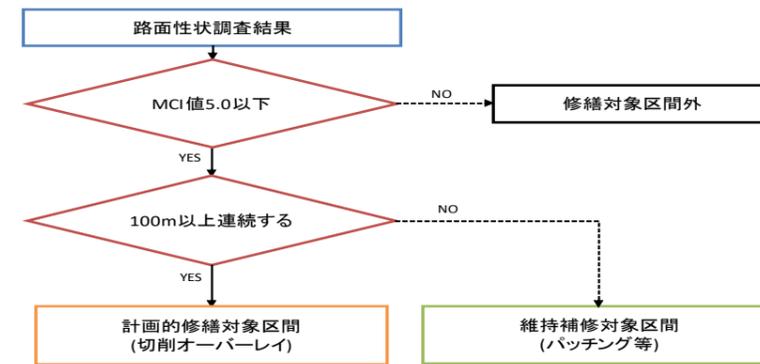


図1. 修繕対象区間の設定方法

5 舗装の状態

- 最新の路面性状調査結果(平成29年度~令和2年度)は以下のとおりです。

表3. 調査結果

MCI値	調査結果		舗装の状態
	延長	割合	
5.1以上	119km	80%	健全
5.0以下	30km	20%	修繕が望ましい



図2. 調査結果の内訳グラフ



図3. 修繕前の舗装状態



図4. 修繕後の舗装状態